

栃木・群馬における魅力的な資源を活かした広域的観光活性化計画（重点）

群馬県及び連携する栃木県の現状

群馬県・栃木県間においては、「二社一寺（日光の社寺）」「尾瀬山の鼻ビジターセンター」「鬼怒川温泉」等の観光拠点が集積し、両県間の周遊観光も盛んである。

また、令和2年6月1日には交通の要衝である「群馬コンベンションセンター（Gメッセ）」が開所し、県内外におけるアフターコンベンションの需要増も見込まれるなど、本地域の観光立地の優位性が高まっている。

課題

観光拠点間の交通の円滑化を図り、周遊観光を促進する道路整備等を推進する必要がある。

目的

両県の持つポテンシャルを活かすため、群馬県・栃木県の両県をつなぐ広域観光周遊ルートを整備し、広域交通ネットワークによる周遊観光を促進することにより、本地域の更なる観光活性化を図る。

整備効果の検証

（A11-001（都）コンベンション施設北口線）

交通の要衝である群馬コンベンションセンターの開設に合わせ、周辺地区のアクセス道路整備を実施した。

本路線の整備により、「群馬コンベンションセンター」への観光入込客数は令和5年度時点で34万人となり、更なる増加が見込まれる。

コンベンションセンターへの観光入込客数の増加は、群馬県及び広域交通ネットワークを形成する栃木県におけるアフターコンベンションの需要を増加させ、観光活性化に寄与すると考えられる。

事業の指標と成果報告

指標1 連携する2県の観光拠点における観光入込客数の増加

観光入込客数 = 日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者

現況: 1,138万人(H28) ⇒ 目標: 1,745万人(+53.3%)
⇒ 実績: 973万人(-14.5%)(R5)

指標2 群馬県の観光拠点における観光入込客数の増加

現況: 148万人(H28) ⇒ 目標: 335万人(+126.4%)
⇒ 実績: 187万人(+26.4%)(R5)

指標3 群馬県の観光拠点(重点対象)における観光入込客数の増加

重点対象施設 = 群馬コンベンションセンター

現況: 0万人(H28) ⇒ 目標: 96万人
⇒ 実績: 34万人(R5)

■目標未達成の要因

R2年～R4年にかけて新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言等の発令により外出が抑制されたことで、R元年までと比較して、観光入込客数が減少したことが要因と考えられる。

■事業の成果

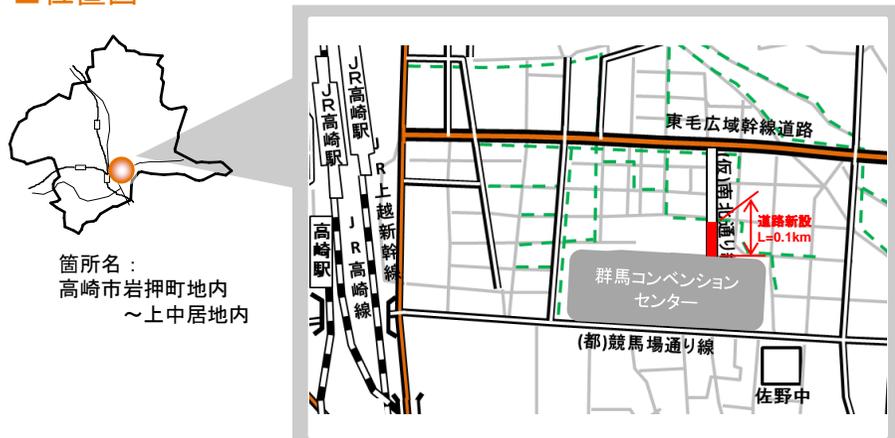
感染症拡大下において、群馬県の観光拠点における観光入込客数は**39万人増加**した。

栃木・群馬における魅力的な資源を活かした広域的観光活性化計画（重点）

整備効果事例

事例①（都）コンベンション施設北口線整備

■位置図



■整備効果



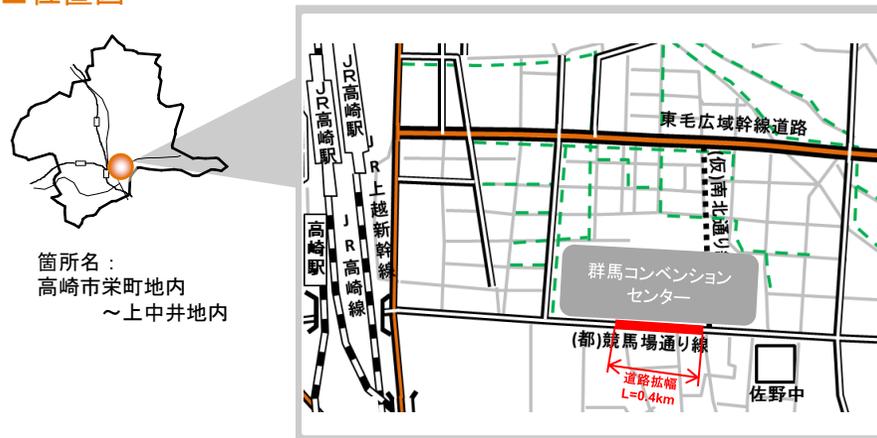
主要アクセス道路がなく、施設利用者の交通が現道の渋滞を招く懸念があった。



コンベンション施設へのアクセス性が向上し、周辺道路の渋滞緩和を図った。

事例②（都）競馬場通り線

■位置図



■整備効果



主要アクセス道路がなく、施設利用者の交通が周辺道路の渋滞を招く懸念があった。



コンベンション施設へのアクセス性が向上し、周辺道路の渋滞緩和を図った。